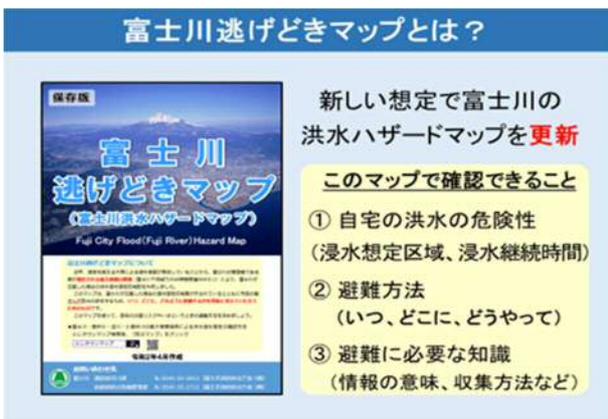




この動画では、富士川逃げどきマップの活用の仕方について説明します。



この度、富士川洪水ハザードマップを「富士川逃げどきマップ」として更新しました。

富士川逃げどきマップとは、今までの富士川洪水ハザードマップと同様に、洪水の危険性を表す浸水想定区域を示しているだけでなく、その場所が浸水した場合、最長でどれくらい浸水が継続するか、浸水継続時間も示しています。

また、富士川の水位が増して危険が迫っているとき、いつ、どこに、どのように避難したらいいか、皆さん自身に考えてもらうための内容を載せています。さらに、避難に必要な知識として、情報の意味、収集方法なども掲載しています。

このマップを使って、自宅の危険性を確認し、水害から身を守るための避難行動に役立ててください。



従来の富士川洪水ハザードマップは、平成15年3月に、富士川流域で150年に1度程度の大雨が降った場合の浸水想定をもとに作成しました。

富士川洪水ハザードマップの更新について



富士川逃げどきマップ【新想定】 (令和2年4月作成)

・国土交通省(河川管理者)が、**想定される最大規模の大雨による浸水想定**を作成

- ・従来より浸水の深さや範囲が増加
- ・新たに「**家屋倒壊危険ゾーン**」を明示



・新しい想定をもとに、避難場所や避難方法などを見直し、「**富士川逃げどきマップ**」を富士市が作成

富士川逃げどきマップは、国土交通省が近年の大雨による被害を勘案して、想定しうる最大規模の大雨による浸水想定を作成したため、この想定をもとに、避難場所や避難方法を見直して作成しました。この新たな想定では、最大規模の大雨を想定しているため、従来より浸水の深さや範囲が増加しており、「家屋倒壊危険ゾーン」という危険エリアが加わっています。

富士川逃げどきマップの構成

学習面

浸水継続時間、各種情報の意味や収集方法、避難場所一覧、**避難行動計画(マイタイムライン)**の作成



富士川逃げどきマップは、大きく分けて、学習面と地図面に分かれています。

学習面には、浸水継続時間や各種の情報の意味や収集方法、避難場所を掲載しています。

中でも一番の特徴が、避難行動計画、「マイタイムライン」ともいいますが、各自で、いつ、どこで、どのように避難したらいいかを考えていただくための方法が記載されています。

富士川逃げどきマップの構成

地図面

想定浸水深、家屋倒壊危険ゾーン、土砂災害警戒区域、避難場所などを地図上に図示



富士川左岸
(旧富士市域)

富士川右岸
(富士川・松野地区)

もう片方の地図面には、富士川に想定される最大規模の降雨があった場合の浸水想定区域図、「ハザードマップ」を記載しています。

見やすい大きさと掲載しているため、富士川左岸分と、富士川地区、松野地区の富士川右岸分で分かれています。それでは、詳しく内容について説明していきます。

学習面には、それぞれ下にページ番号が記載されていますので、そちらを参照してください。

避難や気象に関する情報(警戒レベル)

学習面 3ページ上段

●「警戒レベル」ととるべき行動

避難や気象に関する情報は、5段階の「警戒レベル」を用いて市民の皆様へ伝達します。

警戒レベル	とるべき行動等	富士市が発令する避難情報	<防災気象情報>
警戒レベル5	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	災害発生情報	総務省発令情報 大雨特別警報
警戒レベル4 全員避難	速やかに避難場所へ避難しましょう。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近所や自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示(緊急) 避難勧告	総務省発令情報 土砂災害警戒情報等
警戒レベル3 高齢者への避難	避難に時間を要する人(高齢者の方、障害のある方、乳幼児等)と支援者は避難しましょう。その他の人は、避難の準備をしましょう。	避難準備・高齢者等避難開始	総務省発令情報 洪水警報 等
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。		総務省発令情報 洪水注意報 等
警戒レベル1	災害への心構えを高めます。		早期注意情報

まず、学習面の3ページ上段をご覧ください。警戒レベルととるべき行動として、右側の防災気象情報は気象庁などが発表する情報、左側にはその発表を参考に市が発令する避難情報を載せています。

警戒レベルは、平成30年の西日本豪雨では、避難の発令の意味を住民が理解できずに避難が遅れたことから、直感的に理解できるよう平成31年5月から追加されました。

この表のとおり、警戒レベルは1から5までありますが、とくに重要な警戒レベルは、警戒レベル3～5になります。

避難や気象に関する情報(警戒レベル)

警戒レベル	とるべき行動等	富士市が発令する避難情報
警戒レベル5	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとります。	災害発生情報
警戒レベル4 全員避難	速やかに避難場所へ避難しましょう。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近隣や自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示(緊急) 避難勧告
警戒レベル3 高齢者等避難	避難に時間を要する人(高齢の方、障害のある方、乳幼児等)と支援者は避難しましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・高齢者等避難開始

ポイント：避難の目安となるタイミングを明確化

- ・警戒レベル3(避難準備・高齢者等避難開始) ⇒ 避難に時間が掛かる方は避難
- ・警戒レベル4(避難勧告、避難指示) ⇒ 全員避難 ※

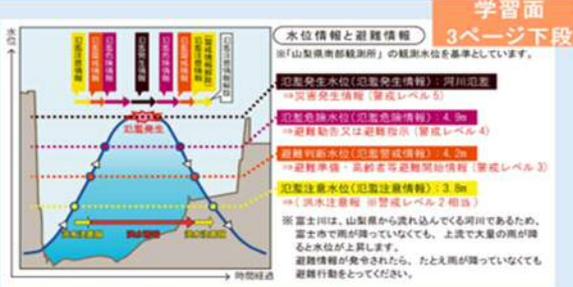
警戒レベル3～5の部分を拡大してみます。

この警戒レベルと、避難情報は、災害発生の可能性が高まっているとき、市から同報無線放送などを使って発令されますが、警戒レベル3は「避難準備・高齢者等避難開始」、これはお年寄りや障害をお持ちの方など、避難に時間のかかる方は避難してください、という意味です。

警戒レベル4「避難勧告、避難指示」は全員避難をしてください。ただし、この全員避難とは、市民全員ではなく、危険な区域にお住まいの方は、全員避難してください、という意味です。

警戒レベル5は既に災害が発生している情報です。命を守るための最善の行動をとってください。

富士川の水位と避難情報の関係性



市から市民の皆さんへお伝えする避難情報は
富士川の水位情報を基準として発令します。

3ページの下段は、富士川の水位と避難情報の関係性を示しています。

上段の警戒レベルや避難情報は、富士川の水位情報と密接な関係があります。

富士川の水位の上昇に応じて、気象庁が発表する情報が変わります。

水位が3.8mになると氾濫注意情報、4.2mでは、氾濫警戒情報、4.9mになると氾濫危険情報となっています。

この水位は、富士川は、山梨県から流れ込んでくる河川であるため、富士市で雨が降ってなくても上流で大量の雨が降ると危険があることから、山梨県の南部観測所の水位を基準としています。

この気象庁などが出す情報をもとに、氾濫警戒情報が出れば、警戒レベル3「避難準備・高齢者等避難開始」、氾濫危険情報が出れば、警戒レベル4「避難勧告」又は「避難指示」といった形で市が避難情報を発令します。

避難を判断するための情報と収集先

学習面
2ページ上段

避難を判断するための情報と収集先

避難するかどうか判断するためには、各機関から発信される情報を自ら収集することが大切です。川の水位や雨の降り方、避難についての情報は、様々な手段で収集できますので、その方法を確認しておきましょう。

<p>川の防災情報</p> <p>国土交通省が運営する川の防災情報では、雨量・水位・ライブカメラなどが確認できます。</p>	<p>富士市防災ラジオ</p> <p>同報無線の放送内容を聞くことができます。また、一部のラジオ放送も聞くことができます。</p>
<p>SASPOS-RADAR</p> <p>静岡県が運営するサイロレーダーでは、県内の雨量や河川の水位などが確認できます。</p>	<p>ラジオエフ(FM84.4)</p> <p>ラジオエフ(FM84.4)では富士市に密着した災害情報を入手できます。</p>
<p>気象庁</p> <p>気象庁から発表される注意報・警報・気象情報などが確認できます。</p>	<p>テレビによる情報収集</p> <p>テレビのリモコンにあるdボタンを押すと、気象情報のほか、市から発信する避難情報や開設されている避難場所などが確認できます。</p>
<p>富士市メールサービス(同報無線情報)</p> <p>同報無線の内容をメール配信します。右記二次発信コードを読み込むか、e-mail@fuji-city.jpに空メールを送信し、メール登録(無料)を行ってください。</p>	<p>テレビによる情報収集</p> <p>テレビのリモコンにあるdボタンを押すと、気象情報のほか、市から発信する避難情報や開設されている避難場所などが確認できます。</p>

市からは以上の避難情報を発令しますが、皆さん自身でもいつ、避難をするのか、いつ避難の準備をするのか様々な情報を入手することが大切です。

学習面の2ページでは大雨時に情報を発信するサイトを紹介しています。

ここに記載されている情報のうち、同報無線放送関連情報と、テレビから得られる情報収集について、ご紹介します。

同報無線放送の情報を受取るために…

同報無線放送では、避難情報や気象警報などの災害情報を市民の皆さんに伝達します。しかし、**大雨時は屋外スピーカーからの音声が聞き取りづらい…**

- ① **富士市防災ラジオ**
放送音声を自宅のラジオで受信し、聞くことができます。(1台1,000円で販売*松野地区は2,000円)
- ② **富士市メールサービス(無料)**
放送内容を文章で受け取ることができるため、防災ラジオが受信しづらい場所や、聞き逃し防止にも役立ちます(**登録無料**)

まず最初に、同報無線放送に関する情報です。避難の必要な場合には、同報無線放送を使って皆さんにお知らせします。しかし、大雨時には音が聞こえにくくなってしまいうため、防災ラジオが有効です。さらに、富士市メールサービスでは放送内容を文章で受け取ることができ、防災ラジオが受信しにくい場所や聞き逃し防止にご活用いただけます。

テレビによる情報収集(dボタン)

松岡	南部	湖井川橋	青野
-1.96m	-1.60m	0.26m	0.51m
丸子橋			
0.46m			

また、大雨時や大雨が予想されるときに、テレビのdボタンを押すと、台風経路や避難情報、水位情報などが確認できます。

洪水時の我が家の避難方法を決めましょう!

学習面
洪水時の避難行動計画(マイタイムライン)を作成する

5~7ページ

ステップ1~3を順番に記入して作成します!

続いて、5ページから7ページを見てください。

この富士川逃げどきマップの一番の特徴がこのマイタイムラインの作成の部分になります。

大雨による災害が差し迫っているとき、避難のタイミング、いわゆる「逃げどき」を逸してしまうと、安全な場所まで移動することもできなくなっているかもしれません。

いつ、どこに、どうやって避難するか、また、そのために、いつ、何をするか決めておくことがマイタイムラインです。

5ページから7ページに記載されたステップ1~3までを作成することでマイタイムラインが完成します。

ステップ1 自宅の大雨時の危険性と避難の方向性

学習面 5～6ページ

ステップ1 自宅の大雨時の危険性と避難の方向を確認しましょう！

1. 地図（裏面）で自宅を探し、印をつける
まずは、自宅が地図上のどの位置にあるのかを確認しましょう。
自宅を探すコツ 自宅近くの目印となる施設（学校・まちづくりセンター）を見つけ、そこから自宅を探してみましょう。
2. 自宅の大雨時の危険性を書き込み、避難の方向を決める
地図（裏面）から、自宅の大雨時の危険性を確認し、以下の表の該当箇所を実線で囲み、囲んだ各項目を実線で結びましょう。



ステップ1 自宅の大雨時の危険性と避難の方向を確認しましょう！

1. 地図（裏面）で自宅を探し、印をつける
まずは、自宅が地図上のどの位置にあるのかを確認しましょう。
自宅を探すコツ 自宅近くの目印となる施設（学校・まちづくりセンター）を見つけ、そこから自宅を探してみましょう。
2. 自宅の大雨時の危険性を書き込み、避難の方向を決める
地図（裏面）から、自宅の大雨時の危険性を確認し、以下の表の該当箇所を実線で囲み、囲んだ各項目を実線で結びましょう。

5～6ページをご覧ください。
ステップ1として、「自宅の大雨時の危険性と避難の方向性を確認」していきまます。
まずは地図面で自宅を探し、印をつけてみましょう。

地図面から自宅を探して、印をつけましょう



自宅を探すコツ

自宅の近くにある目印となる施設（学校・まちづくりセンター）を見つけ、そこから自宅を探す。



自宅を探すコツとしては、自宅の近くにある目印となる、学校、まちづくりセンター、駅などの施設を見つけて、そこから自宅を探してみてください。

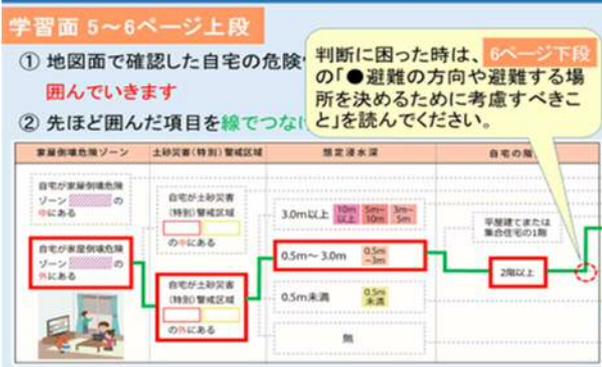
凡例から自宅の危険性を確認しましょう



自宅などの場所に印をしたら、地図面の端に記されている凡例から自宅の危険性を確認しましょう。

同じく、地図面の端に「この地図の使い方」が記載されていますので、この内容に沿って、家屋倒壊危険ゾーンの内側か外側か、土砂災害警戒区域の内側か外側か、浸水の深さはどれくらいか、それぞれ確認していきましょう。

自宅の危険性などを書き込みましょう！



危険性の確認が終わったら学習面の5～6ページに戻ってください。確認した危険性の内容を、表に記入していきます。

まずは、該当する項目を線で囲んでいきます。

続いて、囲んだ項目を線でつなげていきます。

場合によっては、線をつなぐとき判断に困る場合があるかもしれません。そのような時は、6ページ下段の「避難の方向や避難する場所を決めるために考慮すべきこと」を読んだから線をつなぎましょう。

避難の方向性を決めましょう！

③線をつないだ結果、自宅の危険性に応じた、「大雨時にあなたがとるべき避難の方向」が決まります！

大雨時にあなたがとるべき避難の方向は？

- 「立ち退き避難」 **ステップ2へ**
 - ▶ 自宅に留まることは危険です。自宅から他の安全な場所へ移動しましょう。
- 「垂直避難」 **ステップ2へ**
 - ▶ 自宅の想定浸水深以上の高い場所へ移動しましょう。
- 「自宅待機」
 - ▶ 外出は控えましょう。また、浸水想定区域内にいる知人や親戚への声かけや、避難者受け入れの心かけを。

←ここで作業終了

線をつないだ結果、最終的にたどり着いたところが、自宅の危険性に応じた「大雨時にあなたがとるべき避難の方向」になります。

「立ち退き避難」になった人は、災害が予想されるような大雨時に自宅に留まることは危険です。自宅から他の安全な場所へ移動してください。

「垂直避難」になった人は、大雨時には自宅の高い場所へ移動しましょう。

「自宅待機」になった人は、大雨時に富士川の洪水による危険性が低い場所です。ただし、災害が予想されるような大雨時には外出は控えましょう。また、浸水区域内に住んでいる知人や親戚への声掛けや、受入れについても考えてみてください。

自宅待機になった人は、ここで作業終了ですが、ほかにも、職場などの危険性についても調べてみましょう。

ステップ2 避難する場所と方法を決める

学習面 5ページ下段

自分が避難する場所や方法を選んで、線で囲みましょう。
また、()内には具体的な人や場所を書き込みましょう！

避難の方向	避難する場所(どこへ)	避難する方法(どのように)
立ち退き避難	(富士太郎)さんの家 避難場所() その他()	自分で (徒歩) 自家用車 タクシー・バス 支援者()さんに手伝ってもらう
垂直避難	自宅の浸水深以上の階	自分で 支援者()さんに手伝ってもらう

市の避難場所(まちづくりセンター、学校など)は、
2ページの「避難場所一覧」をご覧ください。

5ページの下段をご覧ください。

ステップ1で立ち退き避難、垂直避難になった人は、次にステップ2に移ります。

ここでは、自分が避難する具体的な場所と、どうやって移動するかを決めていきます。

まず、ステップ1で決めた「避難の方向」を線で囲みます。

垂直避難の方は、自宅の上層階が避難場所ですので、階段の移動などに支援が必要な方は、あらかじめ支援をお願いする人を決めておきます。

立ち退き避難の方は、自分がどこへ避難するかを決めます

避難する場所は、浸水想定のない場所か、遠くまで移動できない方は、近隣の高くて頑丈な建物とします。

また、このとき、避難する場所は公的な避難場所に限らず、知人や親せきの家など、頼れる家がある場合はそこへの避難を考えてみてください。密をさけることにもつながります。

市の公的な避難場所については、学習面2ページの「避難場所一覧」をご覧ください。

さらに、避難場所までの移動手段も具体的に決めておきましょう。

ステップ2まで終わった方は、最後に学習面の7ページのステップ3に進んで「わが家のマイタイムライン」を完成させましょう。

ここでは、ステップ1～2で確認した避難する場所と方法に加えて、避難するタイミングを決めていきます。

ステップ3 わが家のマイタイムラインを完成させよう

学習面 7ページ

ステップ1、2で確認した「避難する場所と方法(どこに、どうやって)」に加えて、ステップ3では避難するタイミング(いつ)を決めます。

↓

洪水時の我が家の避難行動計画(マイタイムライン)が完成!

まずは、大雨時にわたしがとる行動1～3について、その行動を開始するきっかけにする情報を気象・避難情報ア～オの中から1つ選んで□欄へ記入しましょう。

ステップ3 わが家のマイタイムラインを完成させよう

1. 大雨時にわたしがとる行動①～③について、行動を開始するきっかけにする情報を気象・避難情報ア～オの中から1つ選んで□欄へ記入しましょう。

わたしがとる行動

気象・避難情報

1 気象情報の収集や家族などに連絡をする	ア 洪水注意報
2 あくまで記入例です。ご自身の状況にあわせて考えてください。	イ 洪水警報
3 避難を開始する	ウ 南関東圏内で富士川の氾濫危険水位3.0mを超す
	エ 警戒レベル3 南関東圏内・高砂町等避難開始
	オ 南関東圏内で富士川の氾濫危険水位4.9mを超す 警戒レベル4 避難開始

最後に、ステップ2で決めた避難する場所と避難する方法を、四角の3の欄に書き込んでマイタイムラインが完成です。

ステップ3 わが家のマイタイムラインを完成させよう

2. ステップ2で決めた避難する場所と方法を、内容を③の避難する場所、避難する方法の枠に記入しましょう。

3 避難を開始する

避難する場所 **富士 太郎さんの家**

避難する方法 **自分で(徒歩)**

マイタイムラインが完成したら、完成したマイタイムラインを写真に撮って、その画像を家族で共有しておくなどしておきましょう。

大雨が予想されるときには、このマイタイムラインを確認し、自ら情報を収集して早めの避難に結び付けましょう。

ステップ3 わが家のマイタイムラインを完成させよう

3. マイタイムラインの完成です。完成したマイタイムラインを写真に撮って、画像を家族で共有しておきましょう。